



地域を再発見! フィルムコミッション

栃木県と宇都宮の担当者、大いに語る

出席者：山本裕之さん（栃木県産業労働観光部観光交流課副主幹・栃木県フィルムコミッション担当）
鈴木洋夫さん（宇都宮観光コンベンション協会観光課長・フィルムコミッション担当）
司会：小関秀明（当所理事） 場所：栃木県庁 15 階展望室

最近、栃木県や宇都宮を舞台にした映像作品が増えているのをご存知ですか？ 実は「フィルムコミッション」という機関が、郷土への撮影誘致などを行っているのです。

そこで今回は、栃木県と宇都宮のフィルムコミッションの担当者にご登場いただき、その役割や仕事、そして隠れた苦労話まで披露していただきました。

には、どうしても一般の方との間をセパレートしなくてはいけないんですが、観光地ですとそれが非常に難しい。また、車の通りが多いところでは、音が邪魔になつてしまうこともあります。

鈴木 撮影している時には「ええ？ こんなところでいいの？」と感じていた場所が、いざ作品になってみると「ああ、ここのってこんなにすばらしい場所だったのか」と改めて感じることもあります。そういう部分では、フィルムコミッションの効果は、地元の再発見というか、県民の意識の変革にもつながると思います。

「撮影候補地を、どれだけ多くストックしているかが重要ですよ」
（鈴木さん）

山本 少し数字を挙げてお話しすると、

県フィルムコミッションの支援作品数は、平成18年度が62件、昨年度は81件でした。また、直接的経済効果という側面から申し上げますと、平成19年度は1億4200万円と、件数の伸びは前年比30%増ですが、経済効果は2倍以上に増えているという集計結果が出ています。

鈴木 宇都宮も平成17年は15件だったのが、昨年は51件ですから、伸びています。撮影が行われれば、その地域で話題にもなります。またいろんな人が来るので、地域の活性化にもなります。

山本 さらに、その地域の名称や映像が広く全国に流れることで、多大なPR効果が期待できます。その作品がヒットした時には、ロケ地を訪ねる方もたくさんいらしゃいますから、既存の観光地以外の新たなスポットが開拓できます。ふだんは見慣れていて、何でもないような景色が、俳優さんが来てお芝居をしたとか、ストーリーに絡んで重要なシーンで使われたりすることで、とても新鮮な感動を

山本裕之さん
（栃木県産業労働観光部観光交流課副主幹・
栃木県フィルムコミッション担当）



鈴木洋夫さん
（宇都宮観光コンベンション協会観光課長・
フィルムコミッション担当）

「私どもの目的は、地域の情報発信と活性化です」
（山本さん）

◎最初に、フィルムコミッションとは何かということから教えてくださいませんか。

山本 私ども栃木県フィルムコミッションは、県産業労働観光部観光交流課内にあり、地域の情報発信と活性化を目的に活動しています。

私たちは、様々な映像作品のロケを県内に誘致し、撮影がスムーズに行なわれるようにサポートを行っていますが、地域住民の生活と利益を守るために制作会社と地域の間立ち、双方にとってメリットとなるような活動を常に心がけています。

鈴木 私どもは宇都宮観光コンベンション

協会として、フィルムコミッションの活動を行っています。山本さんのところと連携し、県全体の動きの中で、宇都宮の部分も私どもが担っているという状況ですね。

◎県内には、フィルムコミッションはいくつあるのですか？

山本 県内の第1号は、那須フィルムコミッションで、平成14年に立ち上がりました。第2号が鈴木さんの属している宇都宮で、平成16年。その後、私ども栃木県、芳賀、栃木、那須烏山と設立されたことから、現在は6団体ですね。

◎場所を選ぶ苦労はどんなことでしょうか。

山本 誰でも思いつくような名勝地、観光地などは、ロケ地には適さないことが多いんです。なぜかというところ、撮影の際

与えてくれることがあります。このようにスクリーンやテレビ画面を通して観ることで、改めて我が郷土の素晴らしい魅力を再確認する。「地域の魅力」の再発見ですよ。それはやがて「郷土愛」だとか「地域に対する誇り」というものに繋がっていく、それがとても重要なんじゃないかと思えます。そして県内にはそういう場所がいっぱい隠れていると思うんです。

「大切なのは、相手の描いているイメージを共有すること」
（山本さん）

◎ロケ地の情報集めも大変でしょう。どうやって収集されるんですか？

山本 基本は足ですね。まめに歩いて探します。特に重要なものが、必ず自分の目で確かめるということなんです。自分で行って、周りの状況を見て、写真を撮って、みる必要があります。

鈴木 問い合わせしてきた制作会社の方が、初めてではなくて何度目かのリピーターだったりすると、「ああ、こういうところを希望しているんだな」と、こちらもすぐ分かるようになります。

山本 問い合わせを受けたとき、相手の描いているイメージを共有することが、すごく大事なことです。せっかくながら探しても、的を射ていなかった

らダメなので、しつこいくらいに条件を聞き、参考になる画像があれば送ってもらいます。

鈴木 相手の希望に合致していない場所に連れて行っても、車から降りてもくれないんですよ。「ああ、ここですか。ふうん。次の場所に行ってください」(笑)。ところが気に入った場所になると、写真も撮るし、ビデオも回す。だから、相手の態度で、気に入ったかどうかはすぐに分かります。

山本 それともうひとつ大事なことは、スピードです。

◎フィルムコミッション活動のPRはどうなさっているのですか？

山本 HPにデータを載せたりはしていますが、基本的には「待ち」ですね。売り込みの電話をしたりはしませんね。

鈴木 やっぱり口コミですよ。山本 そうそう。「あそこのフィルムコミッションは頼りになる」ということが業界内に広まれば、だんだんと依頼が増えてきます。

鈴木 映像の世界って、意外に狭いんです。その中で口コミで広がれば、次の作品の問い合わせにつながります。だから、口コミが一番のポイントですね。

山本 映像制作会社についても同じことが言えます。何度か仕事をしていると相手の担当者のもも分かってくる。いつもきちんとした仕事をする人

からの相談には「もうひと頑張りしてあげよう」という気持ちになりますね。

「フィルムコミッションの目的は、地域の情報発信と活性化」と山本さん



「大変だったからこそ、できた後の感動はひとしおでした」
(山本さん)

◎撮影秘話、ここだけの裏話などあれば、教えていただけますか。

鈴木 私が一番最初に手がけた撮影では、松が峰教会が現場だったんです。当初の予定では教会の中を撮影するだけだったのですが、監督さんが来て「いい教会ですね」とおっしゃり、外側も撮ることになりました。あとで映像を見たら、松が峰教会が大きく写ったので、感動しました。ちょっと紹介した事が、こんなに大きく扱ってもらえた。フィルムコミッションってすごいな——とその時に感じました。そこから、これは一生懸命やらなくちゃと(笑)。



「ロミが番のポイントですね」と鈴木さん

鈴木 初めて死にました(笑)。
最近監督さんに「いいキャラしてますね」と言われると、どきどきするんです。また出てくれば話かなと(笑)。
山本さんは制服系が多いですよ。
山本 看守役とか警備員役とかやりましたね。他には先生役、医者役もあつたかな。
鈴木 自宅の開放というのがありますね。私の家では、もう4作品撮ってます。山本 住んでいる家を貸してくれる人って、なかなかいないんですよ。制作側は臨場感を追求して「実際に住んでいる家」を希望してることが多いんです。ところが一回撮影に入ると、ほんの短いシーンでも、朝から夕方まで——へたをすると夜中までかかりますからねえ。その間、住んでいる人は風呂にも入れないわけです。だから協力してくれる家を見つけたのが大変で、ついつい「うちを使っちゃえば」となる(笑)。
鈴木 頼むより早いですよ。自分の家へ連れて行って「どうですか?」「ここがいいです!」となれば「じゃあどうぞー!」と...



栃木県フィルムコミッションHP
<http://www.tochigi-film.jp/>

しなくちゃならない(笑)。そんな苦勞もあります。

「問題が無い撮影なんて、ない。何かしら起こります」
(鈴木さん)

鈴木 エキストラ集めも苦勞が多いんです。今、私どもには320人くらい登録のエキストラさんがいらつしゃいます。制作側から「何歳くらい、男性何名、女性何名」と要望を受けると、当てはまる人にメールを送ってご都合を聞き、手配するわけです。

始めの頃はいろいろトラブルがありました。エキストラに来た人が「なんでこんな待たせるんだ」と怒り出したこともありました。「いつになったら終わるんですか」と叱られたり。

朝8時に集合していただいて、撮影の人は一生懸命撮影してらるんですが、進行状況によってはエキストラはそのまま長時間待機していて、結局撮影に入ったのは夜になってからなんてことが、最初の頃あったんですよ。当時は私も勉強不足で、ただ待たせたりしていたものですから、今から考えるとケアが足りなかった、悪いことをしたなと反省しています。

山本 ひどい時には、結局撮影しないで帰っていただくこともありますからね。そういうこともある、ということ

「完成した作品から栃木県の魅力を再発見してほしいと思います」
(山本さん)

◎最後にこれからの抱負をお願いします。

山本 撮影件数は順調に伸びておりますので、あとはもっと県民の方にフィルムコミッションの活動を知っていただきたいと思えます。私どものHPでも、撮影した作品で公開許可のおりたものは、可能な限り掲載していますから、それを手がかりに作品を見て欲しい。そして、そこから栃木県の魅力を再発見してほしいと思います。
鈴木 私は、撮影者の方に提供できる持



宇都宮フィルムコミッションHP
<http://www.utsunomiya-cvb.org/film/>

は、事前に御了解いただいておく必要はありますよね。せっかく好意で集まっていたら、不満だけもって帰られるのでは、申し訳ない。せめて撮影現場を楽しんでいただきたいですね。
鈴木 エキストラさんだけではなく、いろいろな問題が起こるんですよ。撮影では。

山本 何の問題も無く予定通りに撮影が進むのであれば、私たちはいる必要がないし、いてもやることは無いわけですよ。何かとつさの出来事に対応するとか、エキストラのケアをするとか、ちゃんとルールを守っているかチェックするとか、そういうために立ち会うんです。

鈴木 でも、何もやるのがなかったというよりは、まずないですよ?

鈴木 ないですね。何かしら起こりますね(笑)。

「いいキャラしてますねと言われると、どきどきするんです」
(鈴木さん)

鈴木 山本さんも私もね、出演は結構していますよ。

山本 (笑)現場にいらると、どうしても「急に人が足りなくなつたんで、立つてるだけでいいから出てください」と言われることが、あるんですよ。

鈴木 監督さんに「ぜひ出てください」

ち駒を、もともと増やしていきたいですね。それが最大の資産ですから。

それから、市役所などに、より協力いただける形をとれるようにしたいと思っています。作品によっては「市のイメージアップにつながる」ので「断られることもある。どんな作品でも貸してもらえようになれば、理想的ですけどね」もね。

山本 私たちフィルムコミッションは、地域と制作会社の間立つ「架け橋」の立場ですから、依頼に不安な部分があれば、無理にお願いすることはありません。撮影に関わつたすべての方に喜んでいただけるように、そして誰からも「フィルムコミッションが関与している撮影なら安心だ」と、言われることを目指して頑張っておりますので、みなさんもぜひご協力をお願いいたします。

